

定数削減は 議会活性化に逆行

議員定数の削減に反対し、市民の声が反映する議会改革を求める会(代表・山崎勝氏)は、先日、市議会に要請書を提出しました。要請書では議員定数削減について、拙速に走らず、慎重な取り扱いをするよう、もめています。

その上で、①市民の多様な意見を反映するには一定の議員が必要であり、定数削減は議会活性化に逆行する②議会が市政のチエック機能を十分果たしえる議員数が必要である。市政運営に対する市民の批判の多さと比べても議会がチエック機能

を果たしているといえず、定数削減は、議会の機能を低下させることを指摘しています。

また今、議会がなすべきこととして、以下三点をあげています。

①議員報酬を10%引き下げること(議員定数を削減しても、議員一人ひとりには何の痛みも生じない、むしろ特別な人しか議員にならない特権化に道をひらく。報酬削減は直接痛みを共有することになる)。

②議会の審議内容を広く市民に公開すること(インターネットやテレビで中継による審議

7月3日の本会議で4会派が 4人の議員定数削減を提出

法定上限数から十人もの削減 議員の重要な役割自らせばめるもの

六月市議会最終日の七月三日の本会議で、議員定数を四人削減する条例案が審議されます(公明党・新風ねやがわ・新生ねやがわクラブ・ねやがわ2の共同提案)。

議員定数は人口規模に応じて決められています。地方自治法の規定では寝屋川市の上限は三十八人ですが、す

でに六人削減して三十二人になっています。四人削減すれば上限数から十人も削減する

ことになります。市議会と市会議員の果たす役割が大きくなっており、これ以上の

削減は、議会と議員の持つ重要な役割を自らせばめしてしまうことになります。

日本共産党は 議員歳費の引き下げを提案

日本共産党は定数削減に強く反対すると共に、議員歳費を八月から10%程度削減する条

例案を提出します。

議員定数の削減と違つて報酬を引き下げることは、すべての議員

が痛みを分かちあうこととなります。

議員定数削減 慎重な取扱いを

市民団体が市議会に要請

公開。

③派遣議会の報酬を削

減するよう働きかけること(派遣議会の報酬は必要最小限にするよう他市と調整すること)。

議員日誌



松尾 信次

六月市議会の初日、までご指導・ご支援全国市議会議長会会長からの二十五年表彰状を、議場で南部議長より手渡されました。

今年四月末で、市会議員二十五年。七回も市会議員選挙に当選できるなど、当初は考えることも出来ませんでした。

それだけに、今日

この間、実に多くの人との出会いと別れがありました、多くの人から学ばせていただきました。

「いつも住民と共に」歩む姿勢を大事にしたいとかがえ

ています。